



新タマネギを10月に収穫するための栽培方法

～日本一早い新タマネギは、日本一遅い播種で～

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所

1. 研究の背景

わが国のタマネギ栽培は、秋まきと春まきの2つの作型に分けられ、栽培地の気温及び日長条件に合わせて播種時期と品種が選ばれています。秋まき作型の収穫時期は1～7月で収穫後に順次出荷され、一方、春まき作型の収穫時期は8～9月で貯蔵タマネギとして翌年春まで出荷されています。

そこで、新たに初夏（2～6月）に播種して10月以降に収穫し、サラダ用の新鮮なタマネギとして供給することを目標に、研究に取り組んでいます。

2. 研究のねらい

タマネギの栽培生理

- 1 秋まき～春まき作型(8～1月まき)では、りん茎が肥大し球の形成後に休眠*します(図1)。
- 2 初夏まき作型(2～6月まき)では、小さなりん茎を形成し休眠します(図2)。
- 3 夏まき作型(7月まき)では、りん茎が形成されず休眠に入りません(図2)。

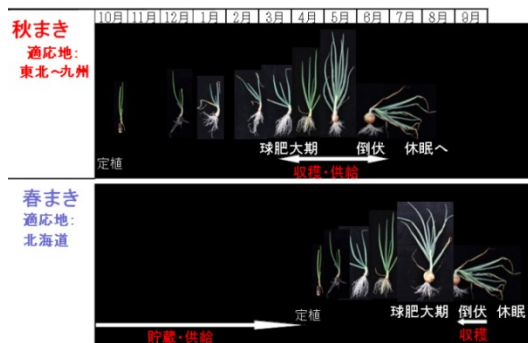


図1 タマネギのりん茎形成、球肥大、倒伏、休眠

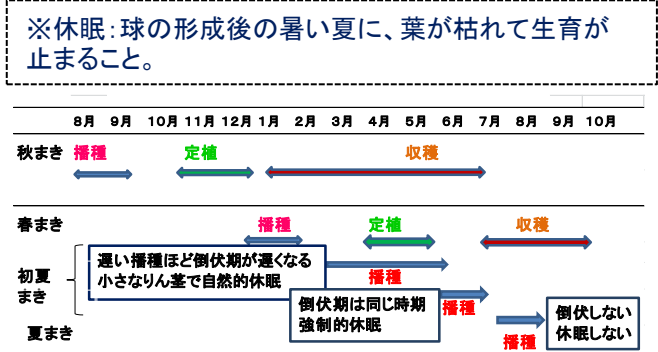


図2 播種時期とりん茎形成(青葉, 1952)

休眠させないで夏を経過し、秋冬に収穫する夏まき作型の栽培は無理
 それでは…圃場で休眠し、秋に休眠から目覚めた後に収穫できないか(初夏まき作型)?

3. 研究の成果

新作型(初夏まき作型)

- ・ 2～6月播種
- ・ 6月定植
- ・ 7月倒伏
- ・ 8月休眠(圃場)
- ・ 8月下旬萌芽

10月15日から300g程度のタマネギが収穫可能



4. 今後の研究の課題

(昨年度の結)
 収穫率が低い
 青立ちが多い
 (今後の目標)
 100%の
 商品化率を
 目指して

